



# 琵琶湖にまつわるエトセトラ

# MML

onthly other lake

プロガイド・おくむらさとしが  
琵琶湖の釣果情報、必須ルアー  
そして旬の話題などなど、気になる  
情報満載で毎月お届けします。  
これさえ読めば、琵琶湖で  
ポーズの心配はナン!ぜひご一読を。  
おくむらさとし=報告



## 今月のひまわり

水面直下までウィードびっしりの  
場所でジグヘッド。でも、ノ  
ントラブルで帰ってくるのです



この「跳ねジャコ」話をご  
紹介してから1ヵ月。内心、  
もう釣れなくなってるかも、  
とドキドキでしたが、なん  
の、なんの。まだまだ現役  
で働いてもらってます。か  
れこれ4ヵ月以上、ボク  
のガイドのメインに鎮座中



水に浮くPEの効果  
で、上方向へと  
跳ねるのです。だ  
からウィードびっ  
しりでも、引っ掛  
かってしまうこと  
が少ないんです

## RAISON JABUROが市場デビュー!

いよいよ発売となりました! 邪道ガイドブライド「RAISON JABURO」の3機種! テーパー&シェイプ社とのコラボロッドで、基本性能の高い同社のロッド作りのノウハウを詰め込み、よく琵琶湖での使用を考えたカーブデザインを盛り込みました。かなりの自信作なので、どうぞよろしく願います。また、お近くの釣り具屋さんで見つからない場合は、ぼくのサイトでも販売していますので、どうぞご利用ください (<http://www.s-okumura.com>)。あっ、そうそう、4機種目は「跳ねジャコ」を視野に入れたロッドに決定したような気が...

大人の事情、早い話が文字数制限の限界がきてしまったので、泣く泣く終了した前回の跳ねジャコ話。実は1ヵ月も引っぱたら、跳ねジャコでまったく釣れなくなってるんじゃないかと内心ドキドキでしたが、なんのなんの、9月に入ってもまだまだ現役で働いている状態です。確か、跳ねジャコをはじめたのが6月上旬くらいだったので、かれこれ4ヵ月以上、ぼくのガイドでメインパターンになっているのです。これだけ長くメインに居座っている釣り方は、ほとんど過去を振り返ってみても見当たりません。新しい釣り方は毎年何かしら出てくるのですが、長期間に渡ってメインに使い続け、きっちり結果の出る釣り方は前代未聞! 最近ではハネラバ、ヘビテキなどがブレイクしましたが、

どちらもメインパターンになるのは2ヵ月くらいが限度ですからね。でもでも、ぶっちゃけ、ガイドとして3ヵ月も同じ釣り方をメインにするのって、本当は「アカン」と思いますが。3ヵ月もあれば、前回、跳ねジャコを体験されたゲストさんがまたお越しになる可能性があまりありますし、また、ぼくの釣果を参考にされる方もたくさんいらっしゃるわけですから、「またかよ」ってことになりません。しかし、それに関しては、なんちやってカリスマガイドのぼくとしては、対策を考えたいわけですよ。っていうか、そうやってしまったのが本音かな。で、そうやってしまった対策ってのが、跳ねジャコの使い方は同じで

## まだまだ続く、跳ねジャコ伝説! びっしりウィードもなんのその!!

も、使う場所が季節の変化によって、まったく違う場所になったのです。6月、7月、8月、9月とそれぞれまったく性質の異なる場所です。跳ねジャコが効いたのです。どれくらい違うかと言いますと、ウィードの背が低くオープンなエリアと、水面下までびっしりと生えたエリアです。オープンなエリアはご理解いただけると思いますが、問題は水面下までびっしりの場所。「そんなところで使ったらウィードに引っ掛かりまくりやん!」。確かに水面下までびっしりとウィード、特にカナダモが生えているようなエリアで、ジグヘッドリグを使えばどうなるかは想像できるでしょう。だから、そういうエリアでヘビテキが流行った

わけですよ。しかし、跳ねジャコは100%とは言いませんが、かなりの確率でそんなところでも、ノントラブルで帰ってくるのです。つまり、ちゃんとしたバスを誘えるわけです。だから、まわりのポートがビビってましたもん、「そんなところでジグヘッド?」って。その「?」な現象を生み出す元になっているのがPEラインです。前回にもお話ししましたが、PEの特徴として「水に浮く」ってのがあり、その影響でジグヘッドを跳ねさせる「上方向」へと跳ねるのです。フロロだと「横方向」もしくは「下方向」にいく可能性があるのです。ほらほらわかってきたでしょ、びっしりなウィードに引っ掛からない理由が。そんなこんなで、まだまだ続く「跳ねジャコ話」。だって、今年一番の大発見かもしれませんからね。でも、秋なので、もしかしたら気が変わって次回は違う話題になるかも?